



Hokkaido Lifelong Learning Association

# ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



## 目次

●年頭のご挨拶	2	●わがまちの生涯学習	4
●令和元年度生涯学習実践者奨励表彰	2	●私の生涯学習	5
●寄稿「東本願寺街道（有珠新道）開削跡を発見」	3	●随想48	6



## 年頭のご挨拶

公益財団法人 北海道生涯学習協会

会長 宇田川 洋

新年明けましておめでとうございます。令和2年の輝かしい新春をお迎えし、皆様のご多幸を謹んでお祈り申し上げます。

当協会において公益目的事業として実施している各種事業に対しまして皆様には深いご理解とご支援をいただき、心よりお礼申し上げます。

当協会では、北海道らしい生涯学習社会の実現のために、「生涯にわたる学び」と「地域で活躍するための学び」を目指して学習を継続できるように①豊かな人生をおくる学習機会の提供、②技能のスキルアップを図る学習機会の提供、③地域や人づくりのための人材の発掘や育成を図る学習機会の提供、④生涯学習への情報提供と相談の四本の柱を立て、「生きがいつくり生涯学習促進事業」や「学習成果実践事業」、道民の学習ニーズや今日的課題に焦点を当てた「かでの講座事業」等を、札幌会場をはじめ全道各地において市町村等のご支援をいただき多くの方々の参加を得て開催しております。

北海道教育委員会より受託している道民カレッジ事業では、主催事業として、北海道への興味・関心を高め、地域について学びを深めるきっかけとすることを目的に、「大学インターネット講座」として道内の大学と連携しながら学習コンテンツをインターネット動画で配信しました。また、昨年度から制作を行っている「地域活動インターネット講座」は、地域で活動する際に必要な知識や技術に関する内容を、身近な道民カレッジ生の実践をとおして紹介しています。

動画の配信と併せてDVDの作成と配付、レポート作成学習会を開催するなどインターネット環境のない学習者の支援も行っております。

また、道民カレッジ生が行っている地域活動の交流をとおして、道民カレッジ生の地域活動へのより一層の参画を促すことを目的とした「地域活動実践講座」を帯広市で開催し、さらに地域の様々な機関や住民と連携し、地域活動やまちづくりに貢献する人材を育成するための参画型講座である「地方創生塾」を留萌管内苫前町、十勝管内上士幌町、オホーツク管内網走市、胆振管内伊達市大滝区で実施しております。

道民カレッジ事業に賛同する市町村、大学、団体等が実施する講座・セミナーを体系化した「連携講座」は、3学科7つの専門コースに分類され、多くの道民の方々が道内のいろいろな場所で自らが学びたい講座を選び、自己の向上に向けて学んでおります。今年度は既に5,000講座を超え一層充実した連携講座となり、学士・修士・博士などの称号を取得された方は延べ2,300名を超えており、着実に生涯学習の学びが広がっていると思っております。

また、当協会では、生涯学習社会の実現に向けた実践において、功績のある個人・団体を表彰し、その功績に報い、もって道民の生涯学習の振興に寄与することを目的に「生涯学習実践者奨励表彰」を設けており今年度は4個人を表彰したところであります。

公益財団法人北海道生涯学習協会といたしましては、今後とも道民一人一人の生涯を通じた自発的な学習活動を支援し、北海道らしい生涯学習社会の充実・発展に全力で取り組んで参りますので、皆様方の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

### 【令和元年度生涯学習実践者奨励表彰】

※敬称略（五十音順）

（個人）

- ・佐々尾雅志（札幌市）
- ・西川 暢一（旭川市）
- ・松井 絹子（帯広市）
- ・松井 英成（帯広市）

# 東本願寺街道（有珠新道）開削跡を発見

東本願寺街道 探索会実行委員

代表 打田元輝

蝦夷地が北海道と命名され、北海道開拓使が明治2（1869）年7月に設置されました。

本府建設に当たった島義勇は北海道神宮前の高台で「他日五州第一の都」（いつの日か、日本随一の都になるだろう）と漢詩を詠んでいます。開拓使の本府を札幌に建設することが決定し、本府に通ずる内陸道の開削に東本願寺が名乗りを上げ、現如上人一行百八十余名は明治3（1870）年2月10日京都を出発し、北陸地方を巡り蝦夷地移住を呼びかけ、寄付金を募りながら五ヶ月の長旅の末、7月7日函館に着船しました。

※これらの経過は「東本願寺北海道開教史」（札幌別院創立八十年記念出版）に詳しく出ています。

現如上人一行は長万部から分かれ黒松内～雷電～小樽経由で札幌入りしています。一方の新道開削部隊が最大難所の喜茂別～札幌間に着手したのは秋口から翌春までの突貫工事であったようで、原始林の伐木葎分3間（約5.4m）道幅9尺（約2.7m）人馬が通れる程度のもので、[延べ55300人工、約1万8千両（現在価格で約2億円）]翌年10月に平岸の終点まで1年3ヶ月で完成させています。現在は簾舞中学校西隣の二星岱南麓に旧道跡が偲ばれ、平岸天神山南麓に終点の碑があります。また国道230号線中山峠の道の駅西側に現如上人像があり、すぐ側にも旧道碑があるので、その辺を開削道路跡と思われる方が多いのではと思います。

※現在のルートは、昭和40年に一般国道、43年に舗装44年から冬季通行可能。

さて、東本願寺の僧侶達（伊達藩から50名ほどの士族移住者も加わって）が開削した峠のルートは、どこかというところ、明治26年の輯製20万分の1図を見ると、道の駅付近からは相当に北（無意根）寄りの鞍部を通過していたようですが、現在まででは『身近な歴史紀行』（地蔵慶護著）に見るより他は見当たりません。

※同書「武四郎の探査ルート想定図」参照……この図での定山溪へのルートは白水川沿いに降りている。

そこで、筆者は明治26年図以外に開削道路の位置を示すものは無いものかと調べたところ、次の2点の地図を調べることが出来ました。

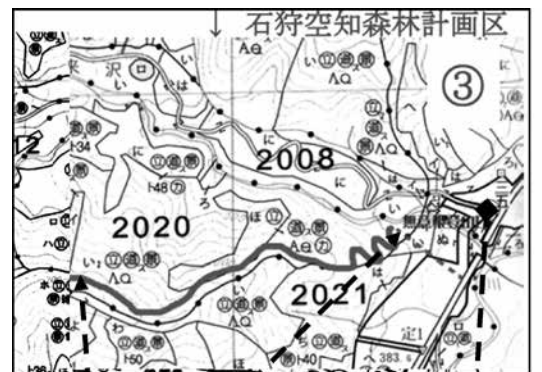
- ①札幌ヨリ有珠ニ至ル新道 北大北方資料室蔵 図類225-1.2 明治4年7月完成した本願寺新道の図。開拓使記録局印あり。※高見澤権之丞 筆
- ②札幌郡西部図／飯島矩道、船越長善（明治6年）北大北方資料室蔵 図類1480 成立年明治6（1873）年とくに河川、道路、部落所在を詳細に画く。

この二図をじっくり検討してから、2018年4月19日残雪の中を薄別川（シケレベウシベツ）、20日は小川〔無意根登山道沿い〕そして21日は白水川と3ルートを探査して、白水川の帰路、予測を立てた無意根登山道左向の山裾を探査したところ、130数年余の時空を越えて、筆者の目前にそのたたまいを見せてくれました。翌22日は、尾根筋をさらに進み約2<sup>キ</sup>付近までを確認出来たので、絶対の確信が持てます。

※但し物的な証拠になる物はありません。

歴史的な価値ある大発見と言えると思います。今般、「東本願寺街道探索会」を立ち上げましたので、当面は発見場所への探索会を実施しながら、喜茂別町留産までの開削跡の探索を進めていきたいと考えておりますので、多くの方々のご賛同を御願い申し上げます。

動画参照⇒<https://www.youtube.com/watch?v=hA1n5Jmdeeo>



概略の位置 ● ※「薄別」バス停あり



# わがまちの生涯学習

栗山町教育委員会

教育長 南 條 宏

栗山町の開拓の歴史は1888年（明治21年）、宮城県角田藩士の泉鱗太郎翁らが鋤をおろしたことに始まり、栗山町の地名はアイヌ語の「ヤム・ニ・ウシ＝栗の木の繁茂しているところ」に起源しています。

道都札幌市や苫小牧港、新千歳空港からそれぞれ約1時間の道央圏に位置し、人口約12,000人の町は、北は屈足山系と東は夕張山系につづく穏やかな丘陵地帯で、岩見沢市、夕張市と接しています。南西を蛇行しながら流れる夕張川は、由仁町、長沼町との境界となり、やや南北に細長く町が形成されており、北西部では国道や鉄道が通る交通の拠点として中心市街地が形成されアクセスの良さが魅力となっています。米やメロン、トマトなど農業を基幹産業とした地域であり、採れないものはない…と言わしめるほど様々な農産物を産出しています。

国蝶オオムラサキが1985年に御大師山で生息が確認され、この発見を機に栗山町のシンボルとして自然環境を保護する意識が高まり、官民一体となった数々の取り組みが行われてきました。素晴らしい豊かな自然環境の下で、子どもたちが「ふるさと栗山」に愛着や誇りを持ち、逞しく成長し「生きる力」を育むためふるさと教育を進めています。

## ■ふるさと教育の中核をなす自然体験教育の推進

戦前の1936年に建てられた雨煙別小学校（1998年閉校）を（公財）コカ・コーラ教育・環境財団の支援とボランティアの手によって再生された、雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスを拠点にした、ふるさと自然体験プログラム（川流れ・Eポート体験、里山体験、ホテル・昆虫観察等）をハサンベツ地区、夕張川など身近な自然環境を活用し、町内小中学校での学習内容に合わせた体験事業を行っています。



（ふるさと教育交流会①）

また、2018年に栗山に棲む昆虫や魚、植物などとふれあい、国蝶オオムラサキが観察できる飼育舎を併設し「ふるさといきもの里オオムラサキ館」がオープンし、地域の魅力を発信する施設となっています。

## ■児童生徒の視野を広げる国際・地域間交流の推進

「国際感覚を持った栗っ子」を育むため海外での生活や文化に触れる機会を体験する「少年ジェット希望の翼」事業は今年度30回を数え、これまで268名の団員をオーストラリアなどに派遣し、現地ではホームステイを経験しより実践的な研修に取り組んでいます。



（ふるさと教育交流会②）

また、外国語によるコミュニケーション能力向上を目指し、2泊3日の英語漬けの「英語コミュニケーションスキル研修」を福島県川俣町の子どもたちとの交流も併せて行っています。

さらに、姉妹都市である宮城県角田市との「子ども交歓のつどい」や勤労青年研修事業を行い交流を深めています。

## ■地域で育む子どもの教育

「子どもに繋がる地域のチカラ」をテーマに教育委員、社会教育委員、地域住民が一堂に会し、各学校の土曜授業の取り組みに耳を傾け、地域全体で子どもを育むより良い環境づくりのため、「ふるさと教育交流会」を開催し、自分たちにできることが何かを議論し、教育への理解を深める取り組みを行っています。

# 私の生涯学習

道民カレッジ生（帯広市）

秋江慶子

夫の転勤で地方を回り、19年ぶりに帯広に戻る。街の中の様子もすっかり変わり、家の周りの人達は無論知らぬ人ばかり、子供達はそれぞれ独立し私の手を必要としない。夫の帰宅時間までは自由な時間は充分、当時私は50代、何か習ってみようと考えていたところ。

私が帯広に戻ったことを知った友人から帯広市婦人学級の「すずらん学級」に欠員が出来たと声を掛けていただく。何を勉強しているかも調べずに「入学します！」と即答。

参加すると同級生は人生経験も豊かで元気な方ばかり。自らのライフスタイルをいかに立てるか生涯学習の必要性など私には初めて聞く言葉だったので困惑した様子が見てとれたのだろうか、級友から「そんなに考え込まなくても今、学級で学習していることが全て生涯学習ですよ。」と言葉をかけられ、なるほど納得。それから婦人活動、ボランティア、スポーツなど楽しく学び3年が経過した頃、婦人センターの館長さんから平成5年度帯広市女性国内研修会に参加の機会をいただいた。

運営委員2名、一般公募から1名の3名に婦人センター係長の引率で4泊5日の研修へ。最初に訪れたのは横浜。「フォーラムよこはま」は女性と男性が共に参画して活発に交流し、活動の応援もしていく場として横浜市が設立、財団法人横浜市女性協会が管理運営にあたっている施設。特に力を注いでいるのが働く女性にとってキャリアアップに結び付く講座やセミナーライブラリーの充実、情報メディアの集約などオフィス街も近いことから利用しやすく、沢山の交流の輪が広がるよう工夫されていた。

次に訪ねたのは埼玉県嵐山町「国立婦人教育会館」。都心から電車で1時間以上かかる郊外の広大な敷地の中に立派な施設。秩父連山を遠くに望む自然の中でゆったり学べるすばらしい環境。さすが国の施設と感心する。

館内は全国各地から女性の代表が大勢参加しており、熱気に満ちていた。講演会終了後、各施設での実習、見学、他県との交流会、連日のリーダー研修と超過密スケジュールだったが、知らなかった情報を得ることができ、全てが勉強になることばかり、研修のお声掛けいただいた時、体力に不安があり参加を悩んだが、満ちあふれるエネルギーに刺激を受け、参加して良かったと心から思えた。

この研修は生涯にわたって学ぼうとする意欲を培い微力ながらも地域に還元したいとの思いを強くした私の生涯学習の礎となるものだった。4泊5日の研修を共にした仲間との友情も一段と深まり、志を同じくする一生の友が出来たことも大きな収穫だった。

研修終了後、学習サークル「ハルニレの会」に入会、会の目的は「資質を高めると共に経験と知識を生かしボランティア活動を通して地域社会に役立てる」ことであり、グループ学習講習会、JICAとの食の交流、動物園の清掃、旧跡を訪ね見聞を広めるなど仲間たちと活発に活動しながら、個人的に美術館のボランティアも続ける。活動の範囲が拡がり家庭の中だけでは得られない充実の日々となっていた。

その後、ハルニレの会から帯広市婦人団体連絡協議会に参加、会の活動方針は「心豊かに安心して住める地域社会を目指し学習し実践を重ねていく」こと。身近な活動として、帯広市の三大祭り（平原まつり、菊まつり、氷まつり）、プラザまつりなど等に参加、協力、平成9年には事務局に入り事務次長を務める。各種審議会委員等への参加など全てが事務局に関わって来るため、今迄にない緊張の日々が続いたが、平成元年からの国内研修終了の先輩、後輩も多く、目的を同じとする仲間たちの協力があって、少しずつ緊張もやわらぎ活動することができた。

事務局の仕事にも慣れたころ、とちプラザで市民大学講座が開講されたと耳にする。講義は夜18:30～20:30までの2時間、夕食後、バスで通える。講座はバラエティに富んでいて、自分の都合に合わせて選択できる。早速、都合の良い日の講座に申し込んだ。初めての受講は帯広畜産大学の先生で、興味深い内容にすっかり引き込まれた。

大学の先生の講義を目の前で受けられることに感激し、次が楽しみになり、また次が楽しみに・・・気がつけば休まず出席、市民大学講座を地域づくりの実学とするという趣旨は、今迄続けてきた私たちの活動にもつながると改めて確信し、なお一層学び続けたいとの思いを強くした。

平成17年4月には、市民大学講座の連携先である道民カレッジに受講生証を申請し、道民カレッジ手帳の付与を受ける。それから12年毎回の講座を楽しみにコツコツとバスに乗り通学、特に藤丸に道民カレッジフレンズ十勝の学の間が出来てからは、より講座の種類も増え、講師でもある金田会長の講義は身近なTVや本を題材にしているので理解し易く、また熱心に現地に足を運んで調べていられる内容はとても興味深い。楽しく学び続け平成29年3月には道民カレッジ1,000単位を取得。嬉しいことに平成30年12月には公益財団法人北海道生涯学習協会様より平成30年度の生涯学習実践者奨励表彰をいただき、大変励みとなった。

傘寿を過ぎるまで元気に活動することができたのは、家族はもとより、ともに学ぶ仲間の存在と学びの場を与えやる気と元気を下さった方々のお陰と心から感謝している。

なお学ぶことへの意欲を失うことなく、健康寿命に与える影響が大きいという人と人とのつながりを大切に生涯学び続けたいと思っている。



随想48

### 俗信のことなど

北海道命名150年を経過し、「北海道人」なる言葉も定着した感じがする。しかし、先住民のアイヌを除いては、北海道人のほとんどは本州以南からの移住者である。出身地の違いは異なる風俗や習慣を伝承するであろうし、寺や神社を出身地から引き継ぐと、同郷者の結合が見られ、それに逆比例して他郷者への排他が表れるとも言われる。そして俗信も出身地によって違いが見られるようである。いくつか例を挙げてみよう。

- ① 月にかさがかかると雨が降る。
- ② 西がくもれば雨が降る。
- ③ カラスが低く巣を作ると風が強い。
- ④ カッコウが鳴いたら農作物を植えてもよい。
- ⑤ カラスが鳴いたら不吉なことがある。
- ⑥ コブシの花が咲いたら豊作（上を向いて咲いたら豊作：宇田川補足）。
- ⑦ 冬至にカボチャを食べると病気をしない。

ほんのわずかの例を挙げたが、これらは私が子供のころから聞いていた俗信である。なぜこれを挙げたかという、実は北海道みんぞく文化研究会による空知管内雨竜町の民俗調査報告を目にしたからである（『北海道を探る』7-雨竜特集その1-、1985）。たくさんの俗信が列挙されているが、21名からの聞き取りで、数がやや多いもの

で、しかも私が聞いていたものを7例挙げてみたのである。①は雨竜町の聞き取り21名中6名、②は7名、③は8名、④は13名、⑤は6名、⑥は6名、⑦は4名の人がこれらの俗信を知っていたのであった。他に、21名中で比較的多くの人が知っており、私が知らない俗信がある。例えば、「寒九の雨は豊作」（寒九とは寒に入ってから9日目つまり1月13日頃）は7名の人が挙げていた。「腹の大きな女性が火事を見ると子供にあざができる」（5名）、「朝の出針はよくない（朝出かける前の出針はケガをする）」（7名）などである。

ところで、私の母方の出身地は青森県である。父方は鳥取県出身であるが、私の祖父も祖母も早くなくなり、面識が無く何も伝えられていないので、先述の私の知っている俗信は青森からの伝承なのであろう。そこで雨竜町の場合の21名の出身を見ると、富山県11名、新潟県2名、石川県1名、徳島県5名、愛媛県2名となっている。青森と比較的近いのは富山・新潟・石川であるが、北海道移住者の多くが東北地方出身であるということとこれらの北陸地方のものと思われる俗信が結び付くのであろうか。

このような民俗調査は各地で行なわれていることであろうが、俗信を考える上での面白さがあると感じた北海道移住3代目の私である。

（公財）北海道生涯学習協会  
会長 宇田川 洋

### 本年もご寄付いただき ありがとうございます

令和元年10月31日（一社）札幌ゴルフ倶楽部様から、社会教育事業に対する助成として、ご寄付をいただきました。

●表紙写真提供 三原和廣氏

### 事務局からのお知らせ

#### ●賛助会員を募集しています

当協会では、会員の皆様のご支援ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、当協会の賛助会員を募集しておりますので、よろしく願いいたします。

※賛助会員（個人 一口3,000円、団体 一口10,000円）  
詳しくは事務局までご連絡ください。

（札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7

TEL011-281-6661）

### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。  
昨年も台風の影響などにより日本各地で大きな災害がありました。  
被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。  
日頃からの準備と情報収集が大切であることを改めて認識したところです。  
また、一方でラグビーのワールドカップで日本中が大いに盛り上がりました。  
今年はいよいよ東京オリンピックが開催され、札幌

ではマラソン、競歩、サッカーの競技が実施されます。  
日本選手の活躍によりたくさんの感動を得られることを期待したいと思います。  
今年も皆様にとってよい年になりますことをご祈念いたします。  
当協会は本年も各種の事業を計画しており、多くの道民の皆様の学習活動を支援してまいりますので、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。